研究代表者	所属学系・職名　経済学系　教授 氏　　名　佐野孝治
研究課題	国際災害復興学の構築に向けて―大規模災害からの復興に関する国際比較研究 International comparison study on the recovery from large-scale disasters
成果の概要	本プロジェクト研究は、大規模災害からの復興に関する「国際復興学」の構築に向けて、日本、中国、タイ、アメリカ、ハイチ、インドネシアにおける大規模災害からの復興プロセスを実態調査により明らかにするとともに、国際比較を可能にするための理論的枠組みを構築することを目的としている。 平成24年度のプロジェクト研究「大規模災害からの復興戦略と諸アクターの役割に関する国際比較研究」では、復興プロセスにおいて諸アクター（中央政府、地方自治体、国際機関、企業、市民、NGO、研究機関など）が復興戦略の策定や政策形成、さらに復興計画の実行にいかなる役割を果たしたのかを、各国の多様な社会経済システムを踏まえながら、国際比較分析を行った。本年度は、この研究を一層発展させ、「国際復興学」の理論化を進め、東日本大震災からの復興に対し国際的な視点から貢献するべく、研究を進めてきた。 その成果として、福島大学国際災害復興学研究チーム編著『東日本大震災からの復旧・復興と国際比較』（八朔社、2014年）を刊行した。 具体的な研究活動として第一に、大規模災害に見舞われた中国、アメリカ、ハイチ、インドネシアなど各国の実態調査を行った。まず佐野孝治、藤本典嗣の両名は2008年の四川大地震と2013年の大地震を経験した四川省を調査し（2013年８月実施）、新旧の大震災に対する復興政策の相違点を分析した。次に、佐野孝治は、2005年にスマトラ沖地震と大津波に襲われたインドネシアを調査し（2013年９月実施）、防災対策についてインタビュー調査を行った。続いて、後藤康夫はハリケーンカトリーナの調査（2013年９月実施）を行うとともにグローバルな市民運動についての研究を行った。さらに藤本典嗣は2010年に大地震に見舞われたハイチを訪問し（2013年９月実施）、二重統治のもとでの、国際的な省察立案や復興プロセスについて分析した。最後に清水修二、佐野孝治、藤本典嗣は韓国の原子力発電所を視察するとともに、NPO 関係者、研究者らと研究会を実施した（2014年２月実施）。 第二に、東日本大震災・原発事故からの復興に関する研究は、清水修二、藤本典嗣、吉田樹、尹卿烈らが精力的に行った。主な業績に、清水修二編『東北発・災害復興学入門』（山形大学出版会, 2013年），清水修二編『福島再生その希望と可能性』（かもがわ出版, 2013年）、星亮一・藤本典嗣・小山良太編『フクシマ発―復興・復旧を考える県民の声と研究者の提言』批評社, 2014年，Noritsugu Fujimoto “Decontamination –Intensive Reconstruction Policy in Fukushima Under Governmental Budget Constraint After 3.12 Explosion”, 2013年10月、吉田樹「東日本大震災被災地におけるモビリティと避難者のアクセシビリティに関する考察」『交通科学』2013年、尹卿烈「スマートグリッド構築を通じた震災復興と地域活性化の可能性」『計画行政学会』2013年９月などがある。 第三に、研究の成果を社会に還元すると同時に、復興の経験を共有するために、2013年６月にアメリカ地理学会会長を招聘して国際シンポジウム「経済地理学から見た東日本大震災」を開催した。これは、「震災復興メカニズムの多様性」（2012年３月）、「大規模災害からの復興戦略」（2012年12月）、に続く第三弾であり、西南交通大学、四川大学、タイ・チュラロンコン大学、世界銀行、JICA などの専門家たちと、共同研究に向けた連携を強めている。 今後も東日本大震災からの復興に対し国際的な視点から貢献するべく、研究を進めていきたい。

成 果 の 概 要	 中国・四川省・震災モニュメント タイ・工業団地の防水塀 韓国・古里原子力発電所 ハイチ・市場